

県北・日光版



日光総局 名村 雄輔

県警の日下部進刑事部長が行き詰まる捜査状況を報告し、関係者が「地域力」の大切さを再確認した一日の「日光市民の安全で安心なまちづくり推進市民大会」。

十月に赴任し先輩から受け継いだ、吉田有希ちゃんが殺害された今市事件のスクラップブックは、この記事で十五冊目になった。

今市事件は「地域力をどう実現させるか」という難題を、今も突きつけ続けていると感じる。

二十七歳の記者は取材の

実現できるか「地域力」

中で、「昔はよかった」と過去を無責任に美化する発言には、違和感を持った。忙しい現代だからこそ、世代間でもさらに議論を重ね、新しい「地域」を見いだしたい。

今市では模索が続く。仕事を持ちながら登下校の見守りを続ける大沢ひまわり隊。阿久津陽司隊長(四七)は「見ないふりをしながら見守る」ことを地域に求める。

拉致現場とされる三差路に小さなほこらが建つ。自身も通った通学路に、大沢小OBの男性(三七)が人知れず作った。「仕事で見守りには立てないから」と控えめな言葉に、地域力を垣間見た。

小1 女兒殺害から2年

近い将来、今市は必ずこの難題を克服する。